

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ピンキラー 5	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ピンキラー 5

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：ピンキラー 4

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

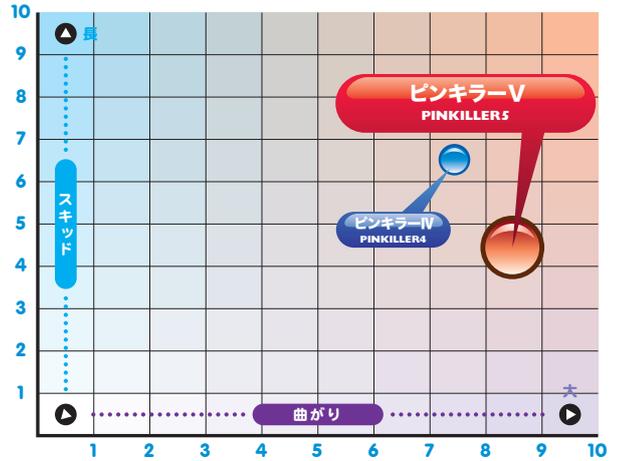
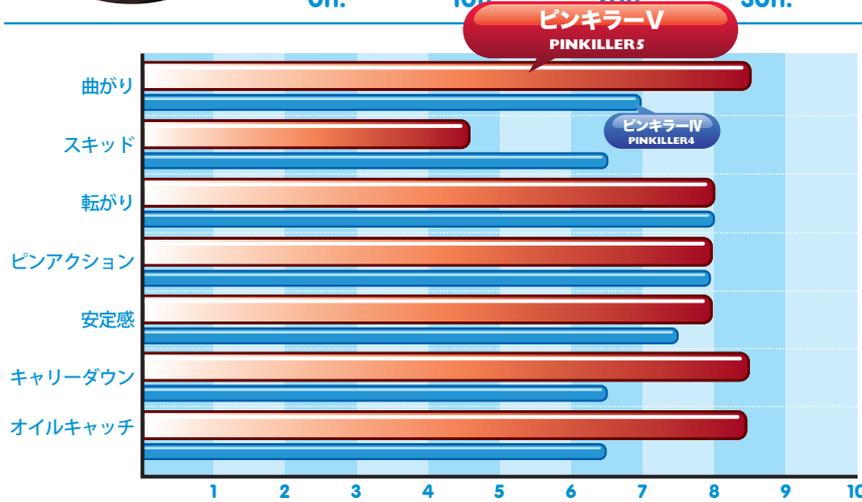
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レールコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

ダイナタン社ピンキラーの代名詞は「走りと切れ」。そのピンキラーのイメージに変化を加え、「今までにないキャッチ力と切れ感」を見出すことを決めたのがこの第5代目になるピンキラー。

その領域に留まる事なく、新たな息吹きをピンキラーに吹き込むことを決めた時から、ダイナタン社開発スタッフと我々ABSテスターとの試行錯誤は始まりました。今年初めから今に至るまで作り直しを繰り返し、妥協という言葉から無縁な性能に仕上がったのがこのピンキラーVです。

このピンキラーVへの拘りはロフトエリアからミッドエリアまではキャッチを優先しながらも転がり感をだし、如何にその中でパワーを温存させバックエンドでアグレッシブにリアクションを起こさせるか。走って切れる性能のボールはキャリーダウンにおいてオイルに弾かれる傾向と切れを減少させる要因をもたらし、結果としてリアクションを発揮できるコンディションの領域に限られること。手前のオイル量、長さ、キャリーダウンに対しての左右度を最小限に抑え、安定したパフォーマンスを発揮できる領域をリアクションイメージを変えずに増やすこと。それこそがピンキラーVの開発コンセプトです。

ピンキラーのイメージを残しながらもキャッチさせ過ぎず、大幅にオイルに対しての強さを求め得たものは「一新した性能」と「投げる価値」があるボールに仕上がりました。

USモデルではない国際的なコンディションならでは、日本のコンディション事情にマッチさせるべく調査されたカバーストック。その所以は性能でお見せします。

特記事項

ピンキラーシリーズで最もオイルに強い性能に仕上げ、対応コンディションはミディアムヘビー。ピンキラーのイメージを残しながらもキャッチを前面にだしたアグレッシブなリアクションをお試しください。